

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年7月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2~4)
 - 1 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修
 - 2 令和8年度中部地区女性農業者サポート協議会総会
 - 3 新規就農者研修事業令和7年度研修生閉講式・令和8年度研修生開講式
 - 4 就農に向けた支援
 - 5 基盤整備事業計画地区が水田裏作検討のためタマネギ先進地を視察
 - 6 7月期子牛せり市
 - 7 宮崎中央家畜市場子牛品評会
 - 8 JAみやざき宮崎中央地区本部 国富支店胡瓜部会女性研修会
 - 9 第55回 令和7年度綾町野菜生産者大会
 - 10 宮崎日向夏研究会・高岡文旦研究会合同栽培講習会
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P5~7)
 - 1 中部地区営農振興協議会野菜部会夏秋ピーマン担当学会現地視察
 - 2 JAみやざき宮崎中央地区本部ピーマン部会総会
 - 3 基盤整備事業計画地区がタマネギの苗床準備開始
 - 4 茶における畑かん高温対策実証ほ
 - 5 露地野菜担当学会
 - 6 ネギほ場に散水器具を設置
 - 7 さといもの湛水栽培展示ほ調査
 - 8 さといもの収量調査
 - 9 有機露地ナス圃場における害虫・天敵調査
 - 10 綾オーガニックスクールで水稻栽培講習会
 - 11 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P8~9)
 - 1 JAうまい米作り研究部会検討会
 - 2 JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会中間実績検討会
 - 3 デルフィニウム研修会
 - 4 極早生温州みかん定点調査開始
 - 5 九州・沖縄青年農業者会議（鹿児島県）
 - 6 佐土原SAP会議役員会
 - 7 経営研修会（佐土原SAP会議）

I 管内農業・農村の主な動き

1 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修

農業者研修（7月開催分）を普及センターにて5回開催しました。

1日の「二十四節気と農業」は41名、8日の「儲かる農業に向けて～雇用管理の実情～」は20名、15日の「農業経営Ⅰ」は17名、22日開催の「GAPの考え方」・「農業経営Ⅱ」は12名、24日開催の「土壌肥料」は14名が受講しました。

気象や雇用など身近で実践的な話題から経営の考え方まで、内容が幅広く、難易度は様々でしたが、どの研修も参加者からの『満足度』『役立ち度』が高い傾向にあり、大変充実した研修会となりました。



【1日、研修会】

2 令和8年度中部地区女性農業者サポート協議会総会

13日、中部農業改良普及センターで開催しました。

会員8名が出席し、前年度の活動実績や、今年度の活動計画について協議し、すべての議案について承認されました。

総会後は、特定社会保険労務士を講師としてお招きし、求人方法に関する研修会を行いました。グループワークを通じて実際の求人票の書き方を確認しながら、活発に意見交換が行われ、出席者にとって、今後、我が家で求人する際の留意点について具体的に考える良い機会になったようです。



【研修会】

3 新規就農者研修事業令和7年度研修生閉講式・令和8年度研修生開講式

30日、JAみやざき宮崎中央地区本部宮崎支店にて開催されました。

中部普及センターからは、今夏から独立自営就農する修了生3名に向けて祝辞を述べました。

また、修了生による研修報告や新規研修生2名の抱負発表も行われました。

修了生全員がこれまでの研修成果を存分に発揮し、安定した農業経営を実践していくことが期待されます。



【令和7年度研修生閉講式】

4 就農に向けた支援

7月は、就農相談を3名、就農計画検討会を2名（施設野菜1名、施設野菜複合経営1名）に対して実施しました。

就農相談では、品目の特性が把握できているか、長期的な経営プランがあるか、相談者への質疑を通して確認し、意識するよう促しました。

また、就農計画検討会では、普及センターから計画に記載のある数値の根拠や、就農に向けた準備状況を確認しました。就農予定者は、長期的な経営を見据え、資金繰りを意識する様子が見られました。

5 基盤整備事業計画地区が水田裏作検討のためタマネギ先進地を視察

3日、柏原地区の生産者3名及び関係機関5名が佐土原町の育苗ほ場を視察しました。

水田裏作の葉付きタマネギについて育苗準備の段取りや資材、スケジュール等について情報交換しました。生産者からは「作業の段取りが参考になった」との声が聞かれました。

柏原地区は、令和7年度に引き続き、令和8年度もタマネギを栽培する予定です。今後、苗準備やほ場準備を支援していきます。



【苗床ほ場視察】

6 7月期子牛せり市

9日と10日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計713頭（雌：314頭、去勢：399頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「暑熱期の受胎率向上に向けて」と題して、発情を見るポイントなどについて講習を行いました。

子牛平均価格（税込）は、雌767千円（前回比55千円安）、去勢856千円（前回比61千円安）、総平均817千円（前回比60千円安）という結果になりました。

7 宮崎中央家畜市場子牛品評会

14日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による8月期子牛せり市に向けた7月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、宮崎支店の江藤優作氏の「ふく52」号（孔明桜産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長の講評では幅、深さ、長さが十分、前中後軀の釣り合い、輪郭の鮮明さを美点として評価されていました。



【優等1席「ふく52」号】

8 JAみやざき宮崎中央地区本部 国富支店胡瓜部会女性研修会

7日、シーガイアコンベンションセンターにおいて、生産者約25名、関係機関4名が参加し、開催されました。

講師として、総合農業試験場黒木副場長を招き、前作の振り返りと次作に向けた取組について研修が行われました。普及センターからは、毎月作成している黄化えそ病（MYSV）対策のチラシと労務管理研修について説明を行いました。

研修内容について、生産者から好評で、第2回の開催を望む声が多く聞かれました。

今後も国富町きゅうりの生産性向上に向けた取組を支援していきます。



【研修会】

第55回 令和7年度綾町野菜生産者大会

28日、綾町高年者研修センターにおいて、胡瓜部会員やその家族、関係機関等約70名が参加し、開催されました。

会長挨拶、表彰式、来賓祝辞の後、市場の情勢や収支決算、事業計画、役員改選などについての報告や検討が行われました。

また、宮崎県総合農業試験場の黒木副場長を講師とし、綾町のきゅうり栽培の歴史や地目によるかん水管理等の違いについて説明がありました。

参加者全員で、前作の振り返りや慰労を行うとともに次作に向けての大会決議を行いました。



【表彰された方々の集合写真】

10 宮崎日向夏研究会・高岡文旦研究会合同栽培講習会

8日、高岡町生産者ほ場において、生産者16名、関係機関3名が参加し、開催されました。

JA営農指導員より病虫害防除や高温対策等、今後の栽培管理について説明がありました。摘果講習会では、本年は着果量が少ない傾向にあるため、傷果や小玉果を中心に摘果するように指導がありました。

引き続き、関係機関と連携しながら、安定生産に向けて支援していきます。



【栽培講習会】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

【重2・スマート農業による高収益園芸産地の育成】

1 中部地区営農振興協議会野菜部会夏秋ピーマン担当者会現地視察

6日、JAこばやし地区本部管内において、視察ほ場生産者2名、関係機関11名が参加し、高温対策を実施している夏秋ピーマンほ場を2カ所視察しました。こばやし地区では、先進的に遮光被覆被覆資材や外気導入による高温対策を実施しており、今回その取り組み状況を確認し、意見交換を行うことで中部管内における高温対策の参考となりました。

今後も夏秋ピーマンを含む野菜類における高温対策を検討していきます。



【現地視察】

2 JAみやざき宮崎中央地区本部ピーマン部会総会

13日、JA学びの杜において、生産者70名、関係機関18名が参加し、開催されました。

部会長、JA杉尾常務の挨拶があり、収量上位10名の会員の表彰式、生産販売実績報告、議案の検討、各種報告が行われました。総会の議案についてはすべて承認されました。

普及センターからは中部地区の研修計画と熱中症対策の周知を行いました。

総会後には情報交換会が開催され、関係機関、生産者の間で意見が交わされ有意義な会となりました。



【会長あいさつ】

【重4・マーケットインに基づく土地利用型営農の振興】

3 基盤整備事業計画地区がタマネギの苗床準備開始

16日、宮崎市柏原地区で、生産者6名が水田裏作のタマネギほ場の苗床準備を始めました。

堆肥の施用、土壌消毒剤の施用、被覆等を実施しました。

播種は、9月上旬に実施する予定です。

生産者から「タマネギの生産に向けて頑張っていきたい」と前向きな意見が聞かれました。今後もタマネギの産地化に向けて支援していきます。



【施肥作業】

4 茶における畑かん高温対策実証ほ

16日、高岡町の茶園で、茶の更新園に対する畑かん散水の高温対策効果を確認するための実証ほを設置しました。

茶の更新園は葉数が少なくなるため、梅雨明け以降、蒸散ができず茶樹温度が高くなり芽が再生しにくくなる可能性があります。

今後は、かん水した区と無かん水区の茶樹温度と芽数を経時的に確認する予定です。生産者からも「かん水の高温対策効果を実証してほしい」との期待の声がありました。



【スプリンクラーによる散水】

5 露地野菜担当者会

22日、普及センター研修室で開催しました。関係機関25名の参加があり、福岡市場の取扱データを活用した需給予測や、基盤整備事業地区における露地野菜の推進、今年度の展示ほ計画等について協議し、産地化に向けた規模や機械化について、意見が出されました。

参加者からは「今後も連携していきながら、露地野菜の産地化を進めていきたい」と前向きな意見がありました。

今後も販路まで含めた露地野菜の振興について検討を進めていきます。

6 ネギほ場に散水器具を設置

27日、田野町のネギほ場にスプリンクラーを設置しました。7月13日の梅雨明け以降、晴天及び高温が続いたため、生産者から「高温対策に活用したい」との声が聞かれました。

今後も干ばつ、高温対策としての散水器具の利用体験を続けていきます。



【設置したスプリンクラー】

7 さといもの湛水栽培展示ほ調査

17日、綾町において、さといも（石川早生）の優良種芋の現地適応性を確認するための展示ほ調査を実施しました。

さといもは県内の種芋供給体制が十分でなく、県外からも入手困難なため、種芋確保や更新が進まないことが課題であり、収量増加の実績がある「湛水栽培」の展示ほを設置し、葉柄などの調査を行いました。

生産者からも「湛水栽培は期待が持てる」との意見がありました。今後も生育・収量調査を実施し、地域での適応性を検証することで、将来的な種芋採種圃場の設置に向けて活動していきます。



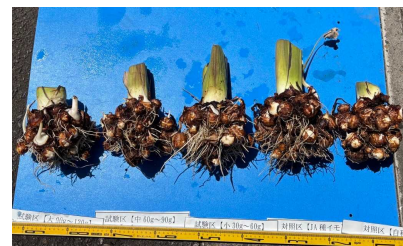
【生育状況(有機栽培)】

8 さといもの収量調査

30日、田野町において、さといも（石川早生）の優良種芋の現地適応性を確認するための展示ほ調査を実施しました。

今回の調査では、各試験区において実際に収穫を行い、それぞれの収量を測定しました。

今後は得られたデータを詳細に集計・分析し、優良種芋と自家種芋の比較検証を行うことで、地域における優良種芋の有用性を明らかにしていきます。



【株張調査】

【重5・有機農業の拡大による環境保全型農業の推進】

9 有機露地ナス圃場における害虫・天敵調査

14日、23日、綾町内の有機露地ナス圃場において、害虫および天敵の発生状況調査を実施しました。

この調査は、バンカー植物（ソルゴー、バジル、マリーゴールド）を導入することで、害虫であるミナミキイロアザミウマなどの飛来を抑制し、同時に天敵昆虫であるヒメハナカメムシなどの定着を促す効果を検証するものです。

今後は、これらの取り組みを通じてナスの食害軽減効果を実証し、地域における有機栽培技術としての普及・推進を図っていきます。



【天敵調査】

10 綾オーガニックスクールで水稻栽培講習会

7日、綾町で、研修生4名を対象に、今期2回目の水稻栽培講習会を開催しました。
今回は水稻の収量・品質に大きな被害を与える主要病害虫の講習内容で、発生消長や、被害の特徴などを採取したサンプルを用いて説明しました。
研修生は初めて見るカメムシや葉いもちの病斑などを興味深く見ながら受講していました。
今後も同スクールの管理する水田で、これら病害虫の発生状況や水稻生育調査を行うなどして研修生の技術修得を支援していきます。

11 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

29日、（合）アヤオーガニックワークス事務所にて、綾オーガニックスクールの企画運営委員会定例会が関係者3名により開催されました。
研修生の近況や実習・座学の進捗、国庫事業を活用した施設整備等について協議したほか、7月からの「中部地区農業者研修」での研修生の様子を共有しました。
普及センターは同スクールで基礎栽培技術の講義を担当しており、今後も関係機関と連携して支援を継続します。

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 JAうまい米作り研究部会検討会

10日、JA宮崎中央支店で、早期水稻の特別栽培米生産に取り組む標記部会員35人を対象に、講習会を行いました。

JAからは栽培管理記録の徹底等が、普及センターからは収穫を間近に控え水管理や適切な収穫時期の判定などを説明しました。

生産者からは米価情勢に関する質問などが出されました。下旬より収穫作業が始まりますが、今後も収量や品質調査で作柄評価や課題整を進めるなどして支援していきます。

2 JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会中間実績検討会

13日、浜乃瀬で開催され、部会員11名が参加しました。

JAから一番茶、二番茶の販売実績について説明があり、数量と単価ともに前年より高い値となりました。特に単価は前年と比べて、1.5倍以上高く取引をされていました。

普及センターからは今後の茶園管理について講習を行い、施肥管理や秋整枝について説明を行いました。生産者からは苦土石灰を撒く時期に関して質問がありました。

今後も良質な茶生産に向けて支援していきます。



【中間実績検討会の様子】

3 デルフィニウム研修会

13日、総合農業試験場の閉鎖型育苗施設の視察を行い、生産者の方々を含め15名が参加しました。

今回の視察の背景は次のとおりです。

7月の育苗時の高温により、生育不良や枯死株が発生し、成苗率が低いことが課題となっています。7年度展示ほとしてセル育苗時にプレハブ冷蔵庫内で閉鎖型育苗を行ったところ、苗の枯死率が低下し十分な数の充実した苗が確保できることが確認できました。そのため、今回は実際に施設を見ていただくこととしました。

参加者から活発な質問が出され、関心は高いようでした。今後とも高温対策が進み、成苗率が高まるように支援していきます。



【育苗施設】

4 極早生温州みかん定点調査開始

1日、宮崎市において、令和8年度極早生温州みかんの定点調査を開始しました。

例年、調査を実施している、宮崎市清武町（2カ所）、宮崎市高岡町（2カ所）の園地にて、10日ごとに果実肥大、果実品質（糖度、クエン酸）を調査します。調査は、営振協果樹部会で連携し、実施しています。

また、異常高温により増加している日焼け果対策として実施している「樹の表層部分摘果展示ほ」の調査も合わせて実施しています。月末の調査では達観ですが、日焼け果が少ない印象でした。

5 九州・沖縄青年農業者会議（鹿児島県）

8日、宮崎市SAP会議と綾町SAP会議が発表に挑みました。大勢の前で発表し、堂々と質疑にも応える姿は、頼もしい成長が感じられました。

惜しくも受賞は逃しましたが、他県の発表から大きな刺激と新たな視点を得て、「この経験を次へ活かし、日々精進したい」と意欲を高めていました。



【宮崎市SAP会議】

6 佐土原SAP会議役員会

14日、宮崎市SAP会議佐土原支部の役員会にて、今後の研修・勉強会の内容検討を行いました。

また、普及センターが役員5名に帳簿の付け方に関する10分講座を実施したところ、仕訳など実務的な気付きが多く、単なる作業から経営を把握する手段へと帳簿付けの意識が変わり、自身の記帳を見直す良い契機となったようです。

7 経営研修会（佐土原SAP会議）

27日、宮崎市SAP会議佐土原支部の親元就農者1名を対象に、経営研修会を開催しました。

青色申告決算書の見方や経営分析ワークを実施し、活発な質疑がありました。

受講者は経営状況を数字で客観的に捉える視点を養うことができ、今後の経営に活かせる様子でした。本県農業を担う青年農業者の活躍が期待されます。



【経営分析のワークを行う受講者】

